

沖縄県医療非常事態宣言

- 5月の連休以降、県が今まで経験したことがない感染拡大に突入し、5月18日には、新規陽性者が168人、療養者数が1,533人と過去最高となり、大変厳しい状況が続いています。
- コロナ感染症重点医療機関ではコロナ患者、非コロナ患者の病床占有率がともに高く、このままのペースで増加すると、来週には入院が必要でも出来ないという事態となります。
- 医療現場では、コロナ診療にあたるために看護師など多くの医療スタッフが必要となり、そのため外来の制限や入院の予定延期などを余儀なくされ、ケガの治療や救命救急など、今まで当たり前を受けていた医療も受けられなくなってしまう。
- 医療を守り、あなたの大切な人やあなた自身を守るために、全ての県民・事業者の皆様のご協力をお願いします。

特に次のことを実行してください。

- ・不要不急な救急受診を控えてください
- ・体調不良の人は、仕事を休ませてください
- ・ルールを守らない飲食店は利用しないでください
- ・実行しよう、マスクの着用、手洗い、換気

令和3年5月19日
沖縄県知事 玉城 デニー

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



新型コロナウイルス感染症 相談・受診フロー（一般の方向け）



症状のある方

発熱等の風邪症状、息苦しさ、強いだるさがある方

接触者等

陽性の方と接触のあった方。接触確認アプリCOCOAで通知のあった方等。症状の有無は問いません。



コールセンター

098-866-2129

受診・検査希望あり
(診療所または検査協力医療機関を紹介)

緊急性が高い



救急外来

できるだけ事前に電話をして、
受診方法を確認する。

—緊急性の高い症状—

- 【表情・外見】
- ・顔色が明らかに悪い※
 - ・唇が紫色になっている
 - ・いつもと違う、様子がおかしい
- 【息苦しさ等】
- ・息が荒くなった（呼吸数が多くなった）
 - ・急に息苦しくなった
 - ・生活をしていて少し動く息苦しい
 - ・胸の痛みがある
 - ・横になれない。
 - ・座らないと息ができない
 - ・肩で息をしている
 - ・ゼーゼーしている
- 【意識障害など】
- ・ぼんやりしている（反応が弱い）※
 - ・もうろうとしている（返事がない）※
 - ・脈がとぶ脈のリズムが乱れる感じがする

※がついているものは、例えば一緒に生活する人が見て判断した場合

診療所

※診察のみ



医師が検査必要と判断

検査協力医療機関



検体採取センター

※北部、浦添、那覇市・南部に設置（宮古、八重山は設置なし）
※中部は、中部地区医師会がホームページの問診サイトで検査協力医療機関を紹介

※検査結果が出る前に容体が悪化した場合は、
受診した医療機関に相談または救急外来を受診してください。

陽性

検査実施機関

陰性

入院（感染症指定医療機関・協力医療機関）

宿泊療養・自宅療養

診療所等で診療継続

※陽性者は原則入院だが、地域の状況に応じて宿泊療養・自宅療養となる場合がある